

令和5年2月 「はこでみ親の会 フォローアップ！」

今回のフォローアップの中で出た話題は、

「常識との戦い」です。

保護者の皆さんのお話の中で、今現在我が子が周りから突き付けられ対応を迫られている事として挙げられた事例は、

■高学年は低学年のお世話を受容的に行うことが当たり前

■中学生は自分の言葉で相手に気持ちを伝える事が当たり前

■クールダウン場所ではなく、もうそろそろ現場(集団場面)で気持ちの切り替えが出来ないとね

■当日の突然の予定変更はこれからもよくある事だから対応できるようにならないとね等です。

今まで集団活動において苦手さを抱え過ぎてきたお子様やその保護者の皆さんにとっては、以上のような通告を受けると、「そろそろ対応出来ないと、立派な社会人にはなれません。今までは大目にみていましたが、これがラストチャンスです。」と言われたような気持ちになり、親子共々落ち込む状況に陥ってしまいます。

この問題において最も大事なポイントは、子ども達自身は上記のようなことが常識として出来るようにならなければいけない事を十分承知しているという点です。つまり、分かっている出来ない。分かっている辛い。分かっている切り替えられない状況であるという事です。

保護者の皆さんのお話を聞いていると、子ども達は本当によく頑張っています。苦手な環境でも懸命に期待に応えようと一歩ずつ適応範囲を広げています。

しかし、常識の波は容赦なく、そして限りなく打ち寄せ、常に適切な言動ができるかどうか試されている状況に置かれます。毎日どれだけ頑張っても年齢や学年が上がるたびに目の前のハードルは高くなるばかりで、意欲はどんどん削がれていきます。

もちろん周りの人たちが親子を陥れようとはしていません。ほとんどが善意を持った対応です。しかし、誰にも相談できず孤立した状況になると、前向きな考えを持たず追いつめられていきます。

そんな時こそ親の会の出番です！

我が子の良い面、出来るようになった事、努力して少しずつ改善している事、年齢を重ねてもやはり苦手な事などを具体的に見つけていき、現状に合った対応や周りからの支援方法を見つけていきましょう。常識のために生きていくではありません。世間体のために生きていくではありません。お子様自身の大事な人生です。子ども達が前向きな気持ちで意欲を持って生きていけるように手助けしていきましょう！

